

授業だより

No. 8

押水第一小学校

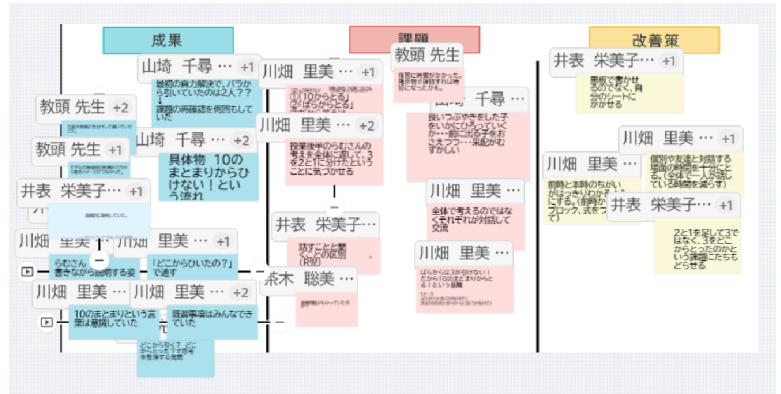
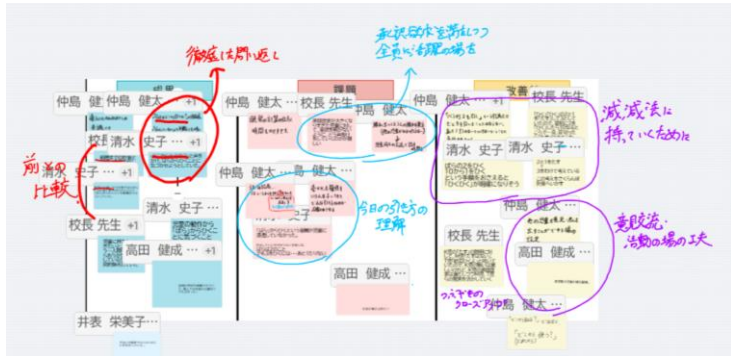
令和6年 11月11日

1年研究授業 算数「ひきざん」(授業者 弘灰)

11月7日(木)に1年算数「ひきざん」の研究授業を行いました。授業後には、授業整理会、中能登教育事務所の中山指導主事からの指導助言がありました。

【授業整理会～各グループの話合いより～】

視点1: 問題解決における教師のアシストは有効だったか。



【指導助言～中山指導主事より～】

共通の軸(単元を通した発問)の意識

- ・指導を行う際には、共通の軸(単元を通した発問)が大切である。今回の授業では、「どこからひいたのかな。」という発問を単元を通して行った。そのおかげで児童は、10からひいたのか、ばらからひいたのかを意識して、計算し、説明する姿が見られた。
- ・共通の軸を意識して、ペア活動を取り入れるとよい。児童同士が「どこからひいたの?」と対話することによって、深まりをもつことができる。

誤答の想定をもつ

- ・授業を行う際には、児童がそのように考えるかを想定することが大切である。誤答を想定しておくと、どのようにアシストすればよいのかも事前に考えておくことができる。

※指導案の中にも「誤答」を記しておく、児童の思考の流れが分かりやすい。

委ねる時間について

- ・単なる発表や考えを伝える場にするのではなく、分からないことを聞き返したり、アドバイスを伝えたり、双方向の交流の場になるとよい。お互いに何かを得られるように、深まりのある「委ねる時間」になるようにしていければよい。
- ・ゆさぶり発問もいくつか用意しておく、より深まりのある授業になる。
- ・委ねる時間の中で、友達と対話を通して自分を考えを確かめ、育てて、また席へ戻って考えを整理する…この繰り返りで、考えを深めることができるようにしていく。